

第4回 2020年代の総合物流施策大綱に関する有識者検討会

## 物流業界におけるシェアリングの現状と今後について

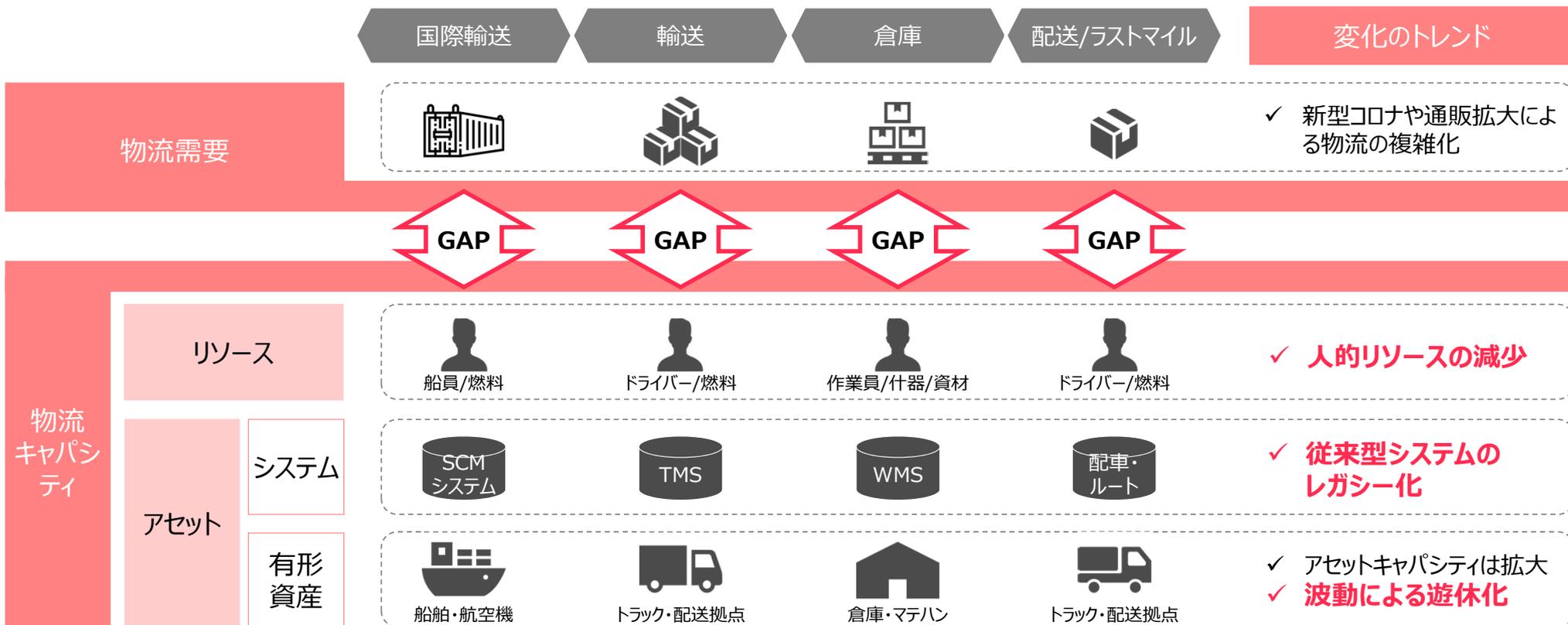
2020年10月5日  
三菱商事株式会社  
物流開発部

# 物流需要と物流キャパシティ



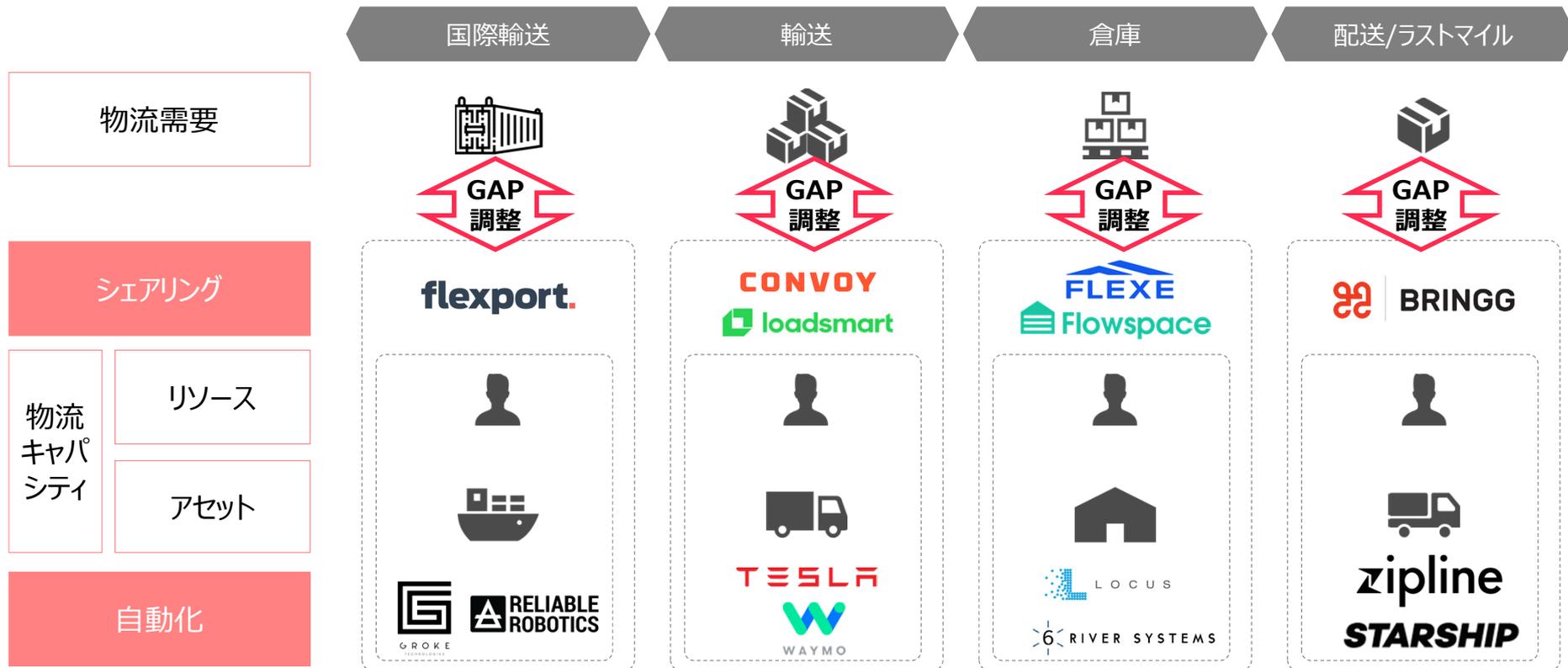
# 物流業界が抱える課題

- 昨今は、「物流需要」が新型コロナの影響や通販の拡大によって、複雑化が一層進む
- 一方、物流サービスの「キャパシティ」は、人不足やシステムのレガシー化で、需要との間にギャップが生じている



# 米国から見る変化のトレンド – 物流キャパシティの「シェアリング」と「自動化」

- 米国では物流需要と物流キャパシティのギャップを調整し、シェアリングするビジネスモデルが発達
- 長期的には自動化テクノロジーの発展に伴い、物流サービスのコスト構造の変革が期待される



# 物流サービスの「標準化」から「シェアリング」へ

- 複雑化する物流に対応するためには、まず最初に物流サービスを標準化することが必要。
- 3条件がそろい、物流サービスの「標準化」が進むと、需要とキャパシティの「シェアリング」が可能になる

## 1. テクノロジーの進展

- 共有可能なSaaS型システムの浸透
- APIデータ連携やAIによる複雑性の吸収
- 自動化技術導入によるオペレーションの汎用化

テクノロジー企業、  
新事業への  
支援・補助

## 2. サプライチェーンの規格化

- 帳票・データ連携の規格化
- パレット・資材などの規格化
- SIP「スマート物流サービス」

規格化及び  
実証への  
支援・補助

## 3. 業界・官民を跨ぐアライアンス

- 業界を跨いだアライアンスの構築
- 物効法を活用した自家アセットやリソースのシェアリング推進

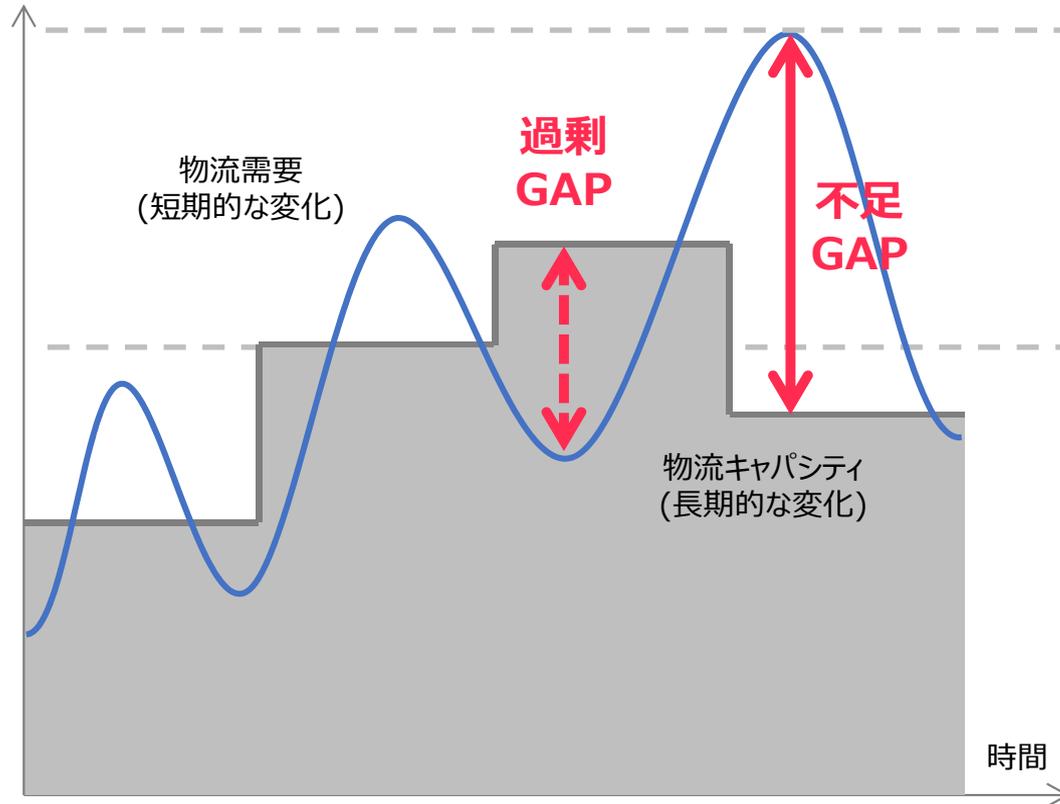
業法・  
物効法上  
の支援

物流サービスの  
**標準化**

物流需要と  
物流キャパシティの  
**シェアリング**

# 競争領域と非競争領域の見極めとシェアリング

- 荷主・物流各企業が自社の「競争領域」と「非競争領域」を見極める
- 複雑化する物流需要に対し、限られたキャパシティを最大限活用し、業界全体で更なる競争力向上を実現する



## 非競争領域

- ✓ シェアリングし、業界全体で最適化
- ✓ 標準化した物流サービスでスポット利用や外部利用を実現
- ✓ 従量課金・変動型の採算性を追求

## 競争領域

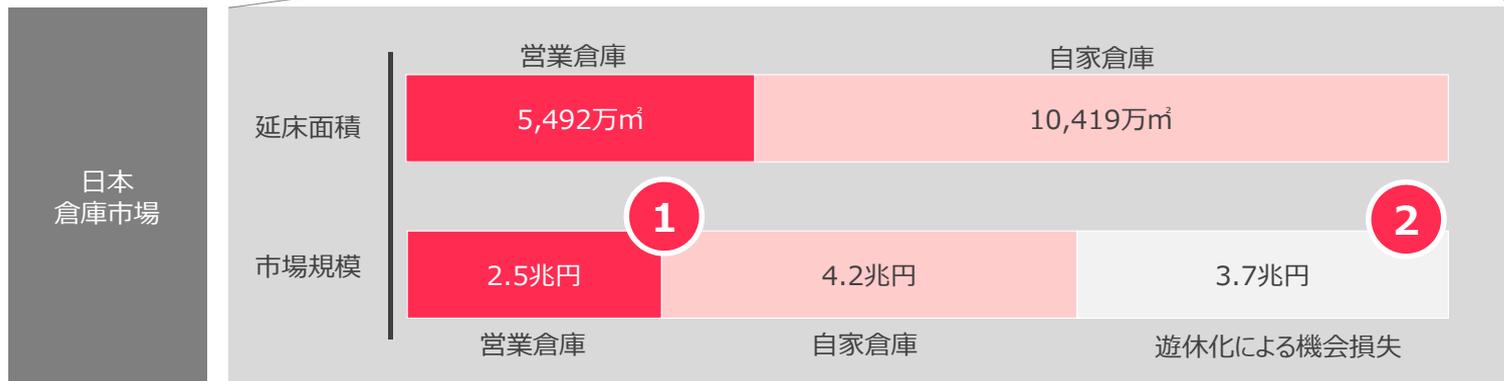
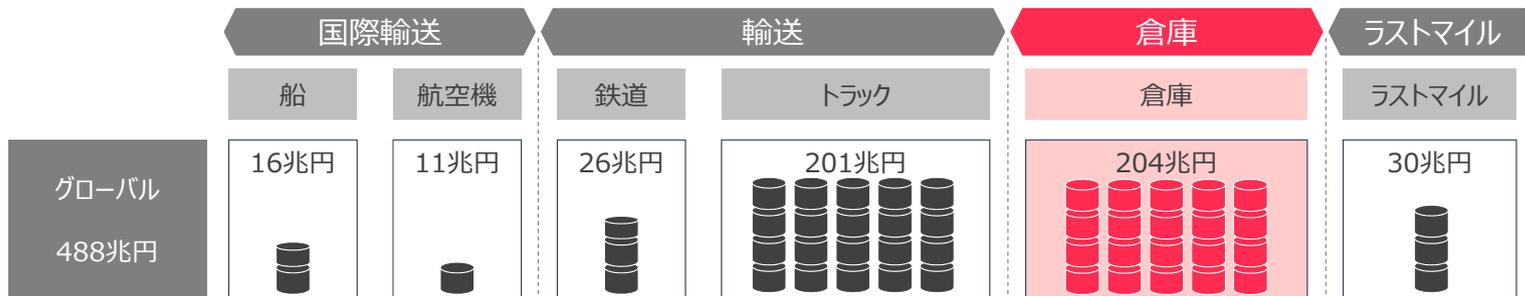
- ✓ 物流需要に対し、生産性を最大限高め、競争優位性を磨く
- ✓ 自社貨物や主要顧客に合わせ、長期的な投資を行い、効率化を図る
- ✓ 長期的には自動化技術の進展で、コスト構造の改革に取り組む

# 弊社の取り組み

～倉庫業界における事例～

# 倉庫業界が抱える課題

- グローバルで500兆円の市場規模を持つ物流業界において、倉庫業界が抱える課題は多い
- 特に本邦では、労働力の減少、遊休化したスペースの課題解決が急務



## 1 労働力の減少

営業・自家倉庫を合わせた6.7兆円の市場の内、48%は人件費と言われ、3兆円近い労働力人口が切迫化している

## 2 スペースの遊休化

賃貸ベースでは満床傾向にあるが、寄託ベースでは、営業倉庫の27%、自家倉庫の40%は遊休化しており、5,800万㎡、3.7兆円が効率化可能な潜在市場として広がっている

# 新しいテクノロジーが抱えるギャップ

- 業界が抱える2つの課題に対し、新しいテクノロジーやビジネスモデルが台頭している
- 一方、テクノロジーの利用者と提供者の間には、普及に歯止めをかけるギャップが存在する

1

## 労働力の代替：倉庫ロボット



ロボットユーザー

初期投資が重い。購入した場合、波動への対応が不安

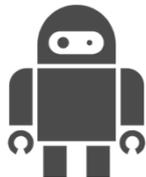
社内にノウハウがなく、使いこなせるか分からない

どう使ったらよいか分からず、使えなかったらどうしよう

専用化した製品だと、他案件への転用が難しい



ロボットメーカー



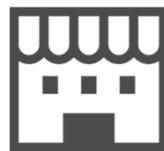
顧客のニーズが分からず、制御システム作ったのに売れない

保守メンテナンスまで手が回っていない

オペレーションフローの設計はユーザーでしてほしい

2

## 遊休スペース：シェアリング



倉庫利用者・荷主

倉庫探しや交渉に時間がかかって、すぐに利用できない

外部倉庫を見つけても、金額や契約の交渉が発生して大変

賃貸・リース契約は、作業員や什器の手配があり大変



倉庫提供者



数十坪空いているが、営業コストをかけたくない

スポット案件を受けるには、与信や保険など手配が面倒

賃貸でサブリースすると、営業倉庫登録を外さないといけない

# 1 月額制倉庫ロボットサービス

## 倉庫ロボットで、物流現場は進化する。

- 多様な倉庫ロボットを月額制プランと独自のシステム連携ソフトウェアを通じ、お客様の新しい倉庫運用をトータルで支援する倉庫ロボットパートナーです。

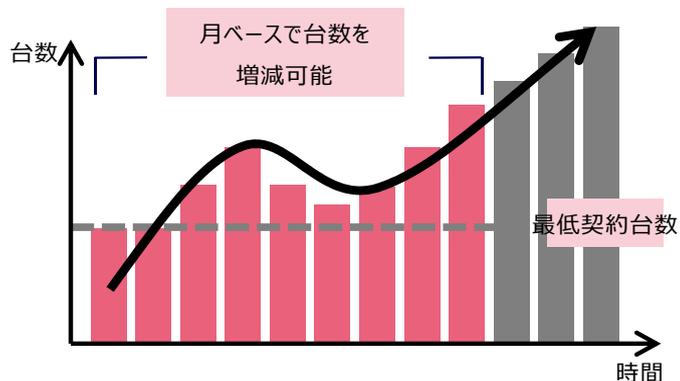
RoboWare

オンライン視察会

<https://roboware.ai/online-visit>

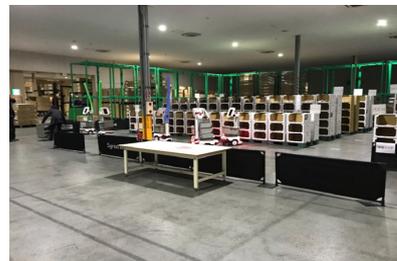
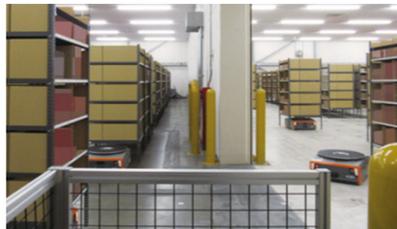
### 01 コンサルティング

分析・戦略から導入・運用  
までトータルでサポート



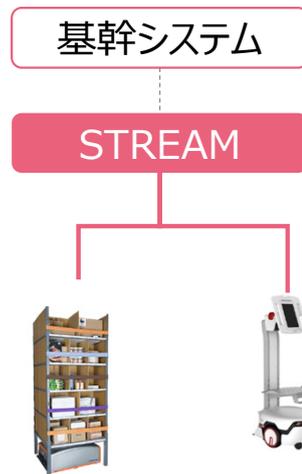
### 02 ロボット&プラン

自分たちで実証を積んだ  
倉庫ロボットだけをご提案



### 03 ソフトウェア

連携ソフトウェアで  
システム改修を最小化



## ② シェアリング型寄託倉庫サービス

### 寄託倉庫を、カンタン利用。

- 米国FLEXE社と資本業務提携し、ブランド名WareX(ウェアエックス)で日本展開
- WareXは価格・場所などの条件を踏まえた倉庫検索から、引き合い管理、入出荷作業、請求業務のオペレーションまで、オンラインで完結する寄託倉庫利用サービスです。

**01** 賃貸借でなく寄託だから、荷物を預けるだけ。  
設備や人の手配不要。



**02** 保管料は、日割り&パレット建て。  
使った分だけ、お支払い。



パレット数	日数	保管料	お支払い額
60 p	× 31 日	× 90 円	= 167,400 円
100 p	× 15 日	× 140 円	= 240,000 円
45 p	× 7 日	× 120 円	= 37,800 円

**03** 見積もり不要。  
倉庫の検索中から、保管料・作業料がわかる。

